

第2期(令和7年度～令和10年度)

# 南三陸高校魅力化構想(案)

南三陸町

# 目 次

第1章 第2期南三陸高校魅力化構想の基本的な考え方	1
第2章 推進体制	3
第3章 実施事業	4
第4章 成果指標(KPI)と目標値	7
第5章 実施体制と施策の検討について	9

## 第1節 協議会と専門部会(実行体制)

### 〈参考〉継続的に適用する第1期構想について

第1章 志津川高校が南三陸町に与える影響	10
第2章 現状の環境要因	11
第3章 志津川高校魅力化の行動規範	13
第4章 育てたい人材像の策定	14
■南三陸町高校魅力化協議会 委員名簿	16
■第2期南三陸高校魅力化構想 策定過程	17

## 第1章 第2期南三陸高校魅力化構想の基本的な考え方

### 1-1 これまでの経緯

第1期志津川高校魅力化構想の策定及び実行(令和2年度～令和6年度)により、南三陸高校の価値を高める取組の推進力が向上したとともに、全国募集による宮城県の指定校認定と受入体制の構築並びに受入れの実施に至ることができました。

特に、南三陸 kizuna 留学生の受入れは、初めての取組であり、果たして応募そのものがあるのか不安が高まる中で開始したものの、高校、県、地域、町といった全ての関係者の努力により、順調に希望者を増やし、南三陸高校の生徒数増加はもとより、地域振興にも寄与しています。

この間、旧志津川高校開校100周年を迎えると同時に、南三陸高校と校名を変更し、新たな歴史を創り続ける準備も整ったところであります。

### 1-2 第1期構想の部分適用

第1期構想では、南三陸高校が南三陸町に与える影響(第1章)、現状の環境要因(第2章)、南三陸高校魅力化の行動規範(第3章)、育てたい人材像の策定(第4章)を定めました。

第1期構想における上記内容は、南三陸高校や本町特有の環境に基づき導き出した「求められる人材像」について定めたものであり、当面の間、不変的・核心的要素であると捉え、本構想においても継続して適用することとします。

### 1-3 本構想実施期間の局面の分析

本構想実施期間における、各種指定や補助制度等の特徴を整理し、局面を分析します。

項 目	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
南三陸 kizuna 留学	3年目	4年目	5年目	6年目
地方創生推進交付金	4年目	5年目	終了	
DX ハイスクール採択校	2年目	3年目	4年目	5年目

#### ■要点整理

- ①本構想の推進にあたり大きな財源である地方創生推進交付金が令和9年度以降は充当されないため、新たな財源の確保や実施事業の再検討が必要となります。
- ②南三陸 kizuna 留学が継続され、受入態勢の強化が求められます。
- ③DX ハイスクールの採択校の決定を受けたことから、新たな教育、実習等の実施検討が可能です。

#### ■本構想実施期間の局面

南三陸 kizuna 留学の継続やDX ハイスクールの採択校の決定により、南三陸高校が置かれている環境は「発展期」であるものの、令和9年度以降の財源が乏しく、発展期を支える事業を継続的に行える体制、仕組みづくりが急務な局面となります。

#### 1-4 本構想に求められること

本構想実施期間は、令和 11 年度以降の第 3 期構想推進にあたり極めて重要な局面であることを理解し、次に掲げる内容を本構想の重点項目とし、実施事業の選択と集中を行うとともに、全ての関係者がその責務を担うものであります。

##### ① 新たな財源の確保

高校の魅力化向上や入学生の確保には、情報発信、各種イベントの実施を含む独自の魅力的な教育が必要不可欠であり、これらを実施するための財源確保が急務となります。

##### ② 受入拡大に向けた環境整備

第 1 期構想の推進により着実に入学希望者が増加する中で、県外からの受入をこのまま維持するためには、寮や下宿、場合によっては通学手段などの環境整備が必要となります。

##### ③ 南三陸高校の更なる魅力向上

ビジョン達成には、南三陸高校が「入学したい高校」として、町内外の中学生に選ばれる高校である必要があります。そのためには、一人一人の夢、目標の達成寄与できる魅力を更に高めていき、他校との差別化が必要となります。

## 第2章 推進体制

### 2-1 重点項目を検討するための推進体制

南三陸町高校魅力化協議会の中に、2つの専門部会を設置し、その目的達成のために活動します。

#### 教育体制部会

選ばれる高校を目指し、地域学・地域探究学といった事業のほか入学希望者を増やすための情報発信等について検討する部会

#### 環境体制部会

寮や下宿など、受入拡大に向けた環境整備や地域との連携について検討する部会

### 2-2 各部会の構成員

各部会の構成員は、町、高校、外部有識者などとし、町が定めるものとします。

### 2-3 検討事項

各部会が検討する事項は次のとおりとなります。

部 会 名	検 討 事 項
教育体制部会	<ul style="list-style-type: none"><li>・独自の学びの検討</li><li>・情報発信の検討</li><li>・南三陸 kizuna 留学生に対する学校生活のサポート</li><li>・全国募集及びオープンキャンパスの実施</li></ul>
環境体制部会	<ul style="list-style-type: none"><li>・南三陸 kizuna 留学生の受入体制の検討</li><li>・下宿等、地域資源の活用</li><li>・ハード面の課題検討</li><li>・南三陸 kizuna 留学生に対する日常生活のサポート</li><li>・南三陸 kizuna 留学生が地域に根差す取組の検討</li><li>・地域との連携体制の強化</li></ul>

### 第3章 実施事業

第2期構想での実施事業は、第1期構想の事業を主な事業メニューとして継承することとしますが、事業の実施の決定については、各部会で検討し、各年度の事業計画に定めて推進していくこととします。

#### 主な事業メニュー

No.	取 組 内 容	内 容	検討部会
1	少人数個別指導の充実	多様な進路の実現に向けてきめ細かな学習指導に取組みます。教員と生徒がマンツーマンで、大学の過去問指導や小論文指導を行う個別添削や、選択科目別の少人数授業を実施します。	教育体制 部会
2	アクティブ・ラーニングの推進	授業手法の研鑽のほかアクティブ・ラーニングを推進するための ICT 機材を活用します。	教育体制 部会
3	キャリア教育の推進	卒業後の進路に向けた具体的なイメージを描くキャリア教育に取組みます。企業への実践的なインターンシップや大学訪問、職業ガイダンスを実施します。	教育体制 部会
4	公営塾「志翔学舎」学力向上の推進	生徒の学力向上に向けた個別ニーズに対応できるオンライン授業の活用や、予備校・関係機関と連携し、魅力ある公営塾を目指します。	教育体制 部会
5	町内小中学校との連携強化	町内中学生の南三陸高校への進学希望率を高めるため、出張ハイスクールや、中・高での合同講演会、部活動支援などの交流により、連携・交流を強化します。	教育体制 部会
6	スポーツの取組強化	専門学校や大学機関との連携によりスポーツトレーナーなどの招聘を行います。	教育体制 部会
7	対外的なプレゼンテーション機会の充実	町内外でのプレゼンテーション、外部に向けた地域課題研究の発表に取組みます。	教育体制 部会

8	実践的なインターンシップの推進	従来の職場体験的な位置付けのインターンシップを発展的にしたインターンシッププログラムを推進します。地元企業が抱える課題について、高校生ならではの視点で解決策を立案します。	教育体制 部会
9	地域系活動の推進	農業、観光、まちづくり活動、ボランティア活動へ生徒が参加しやすい仕組みをつくりま す。生徒会又はクラブ活動として取組むな ど、継続的に実行します。	教育体制 部会
10	「地域学」の推進	南三陸町の現状について講義やフィールドワ ークで学び、南三陸町の魅力を高めるプラン の提案などを行います。	教育体制 部会
11	「地域探究学」の推進	生徒が関心ある地域課題をテーマに、調査 又は実証研究(アクション)を行います。	教育体制 部会
12	専門学校、大学連携の推 進	地域課題研究において、大学生との意見交 換や研究へのサポートの協力を依頼するほ か、地域連携授業の運営ボランティアや放課 後の学習指導などを連携して実施します。	教育体制 部会
13	高校生の活動を支援する 地域の応援組織の強化	農業体験、地域ボランティアなど様々な体験 を支援できる地域の方を募集し、マッチング を図ります。	環境体制 部会
14	海外の高校との交流事業	異文化コミュニケーションを身に付けることを 目的に、スポーツや文化交流などの合同授 業を実施します。	教育体制 部会
15	情報通信領域の学び強化	既に実施している情報通信関連の学びをさら に強化します。	教育体制 部会
16	オープンハイスクールの充 実	中学生を対象に、南三陸高校の雰囲気や授 業、部活動体験、寮見学などを行います。参 加者のニーズに応じたプログラムを提供で きるように内容を充実します。	教育体制 部会

17	県外説明会や南三陸高校 見学ツアーの実施	他校と連携した「南三陸 kizuna 留学」合同説明会への参加や、南三陸高校を直接感じてもらうために、南三陸高校見学ツアーを実施します。	教育体制 部会
18	情報発信の充実	南三陸高校のホームページの充実や SNS 等を活用した情報発信に取り組みます。	教育体制 部会
19	地域での受入体制の検討	年間通じて南三陸 kizuna 留学生が安心して生活できる環境(寮・下宿、通学手段など)を検討します。	環境体制 部会
20	財源の確保	持続可能な事業推進のため、安定した財源の確保を実現します。	環境体制 部会



## 第4章 成果指標(KPI)と目標値

成果指標(KPI)と目標値を次のように定めます。目標値は第2期構想期間である4年間での達成目標とします。なお、1年ごとに現状値を測り、取組を検証します。

### ◆ふるさと南三陸への思いを育み、地域に貢献する人材の育成

〈地域への愛着、誇り、感謝、地域社会に貢献する意志、新たな価値を創造する力を持った地域起業家精神を養う〉

#### (1) 第2期構想期間における成果指標(KPI)

KPI①	入学希望者数
KPI②	在校生の満足度(部活動含む)
KPI③	卒業生の満足度

#### (2) 各指標(KPI)の目標値

KPI①	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)
【参考】連携2中学生卒業者数 (中3生徒数見込)	75人	78人	71人	72人
連携2中からの入学者数 (連携2中から各年60%の入学者を目指す)	45人(60%)	47人(60%)	43人(60%)	44人(60%)
町外中学からの入学者数(②) ①R5とR6のオープンキャンパス来場者数を比較した数値(1.2)を伸び率とし、前年数値に伸び率を乗じた数値 ②R5入学者数にオープンキャンパス来場者数を除法した数値(0.15)を①に乘じた数値	①オープンキャンパス来場見込数 40人  ②6人	①オープンキャンパス来場見込数 48人  ②7人	①オープンキャンパス来場見込数 57人  ②9人	①オープンキャンパス来場見込数 68人  ②10人
県外からの入学者数 (全国募集に基づく定員数を充足)	12人	12人	12人	12人
入学者数	63人	66人	64人	66人

KPI②	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)
在校生の満足度(部活動を含む) (R6のアンケート結果を基に各年5%の伸び率とした数値)	75%	80%	85%	90%

KPI③	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)
卒業生の満足度	50%	55%	60%	65%

(参考)第1期構想期間内の南三陸高校入学者数の実績値

	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)
定員	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人
連携2中学生卒業生数 (中3生徒数)	102 人	100 人	100 人	98 人	76 人
町内からの進学者数 (町内生)	51 人	41 人	45 人	47 人	35 人
他地区からの進学者数 (県内生)	5 人	5 人	4 人	3 人	3 人
南三陸 kizuna 留学生 (県外生)	0 人	0 人	0 人	5 人	10 人
南三陸高校入学者数計	56 人	46 人	49 人	55 人	48 人
定員充足率	46.6%	38.3%	40.8%	45.8%	40.0%

### (3) 魅力化アンケートの実施

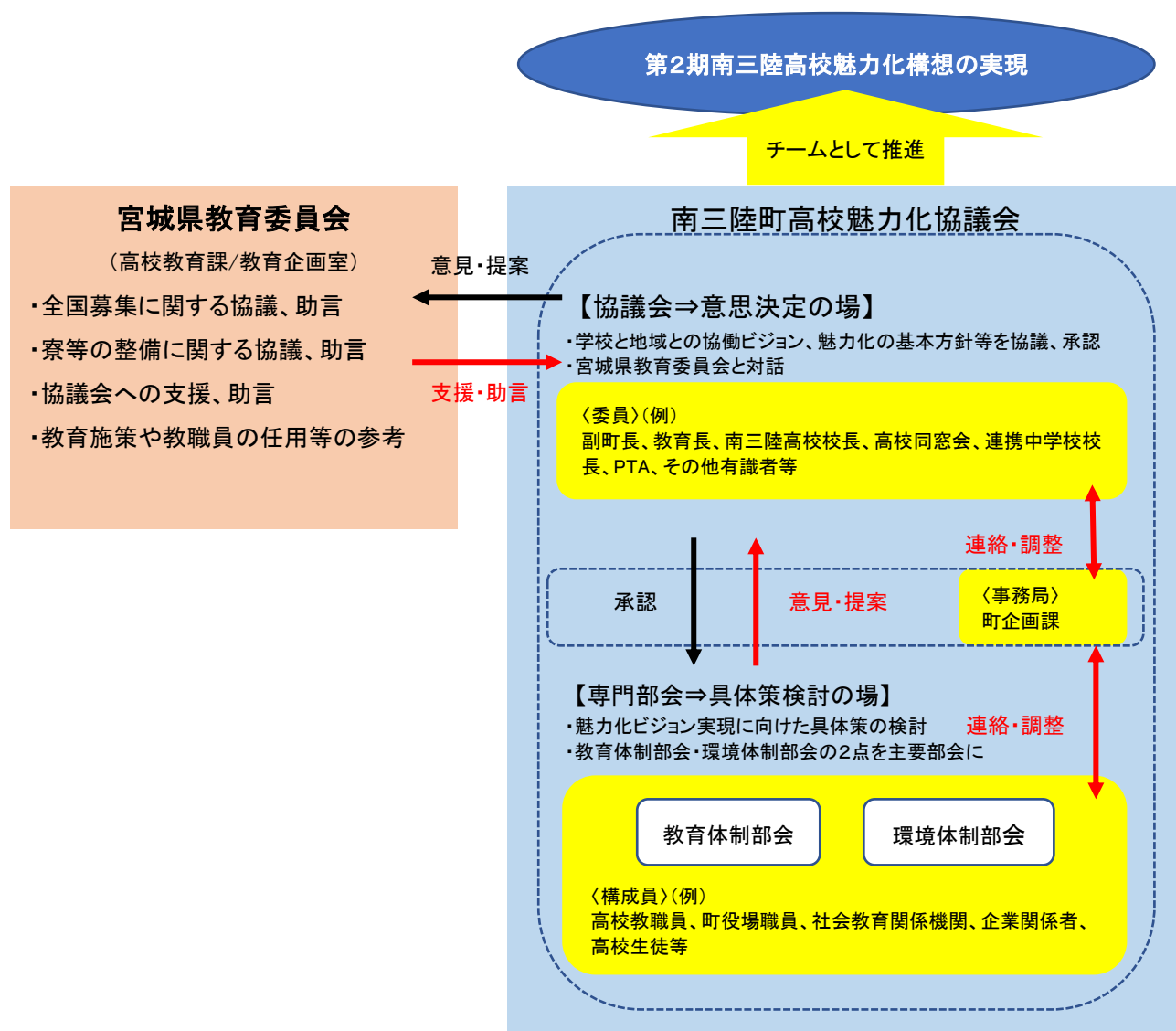
- ① 第2期構想の効果を図るために、年度ごとにアンケートを実施する。
- ② 事業実施初年度(R7)と第1期構想最終年度(R6)の比較。

## 第5章 実施体制と施策の検討について

### 協議会と専門部会(実行体制)

第1期構想から引き続き、南三陸町高校魅力化協議会に「専門部会」を設置し、新規施策の実現に向けて協議、検討を行っていきます。各専門部会で協議、検討された事項は、協議会へ報告を行い、協議会で承認されたあと事業の実施を行います。

図1 令和7年度以降の体制図



## ＜参考＞ 継続的に適用する第 1 期構想について

### 第1章 志津川高校が南三陸町に与える影響

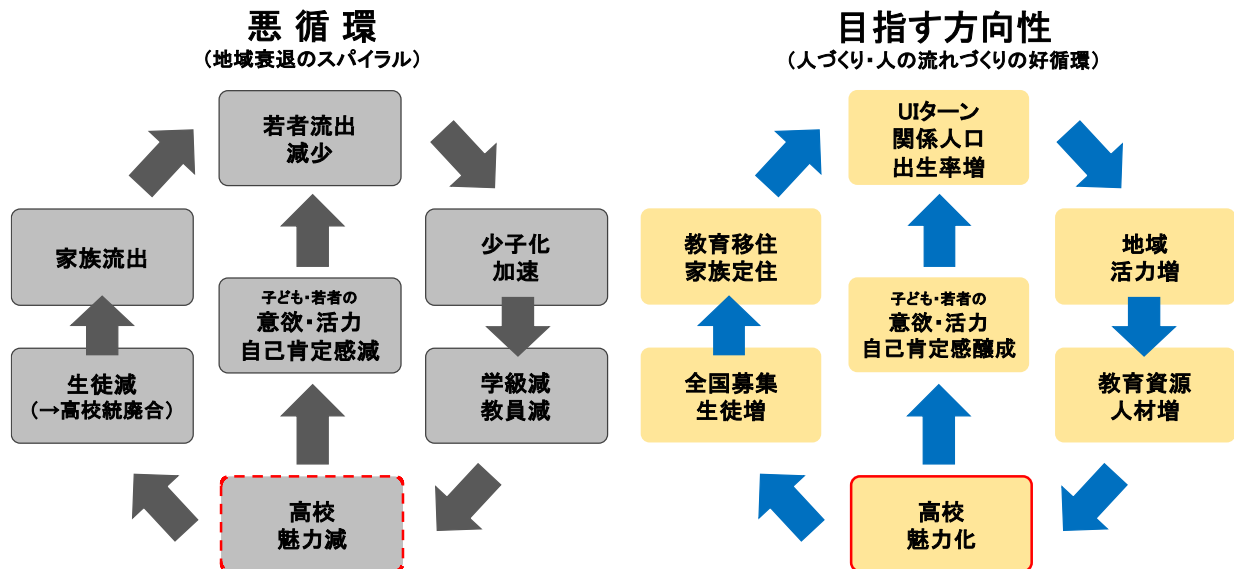
志津川高校は、「真・和・敬」の校訓を基本理念とし、地域に根ざした特色ある教育活動が行われています。創立95周年を迎え、これまで約12,500名の同窓生が各方面で活躍しています。平成15年度からは、県内唯一の地域連携型中高一貫教育校として、南三陸町の未来を担う人材の育成に取り組んでいます。さらに、平成22年度から情報ビジネス科で取り組んでいる「南三陸町モアイ化計画」では、生徒が町のシンボルであるモアイの缶バッジ、ストラップ等を製作し、震災で失った町民バスの購入資金としてご寄附をいただきました。平成28年度に念願の町民バスが復活し、日本フィランソロピー協会より奨励賞を受賞しています。

その一方で、平成22年度には413人だった生徒数が、本年度は199人に半減し、1学年120人の定員割れが常態化しています。南三陸町の人材育成に大きな貢献を果たしてきた志津川高校がなくなれば、中学卒業とともに南三陸町を離れ、全ての生徒が町外の高校で学び、日中はこの町に15歳から18歳の生徒がいなくなります。遠方に通学させなければならないため、生徒・保護者の時間的・経済的な負担が増えます。それにより、生徒とともに世帯ごと転出していく家庭も増加することになります。すべての子どもが高校・大学を町外で過ごすため地元へ愛着が持てず、大学卒業後も地元に戻らない可能性が高くなります。さらに、教育費の負担増により、子どもを生むことへの不安が高まるため、出生率も低下する可能性があります。

また、現在の人口予測では、南三陸町の人口は1975年の約22,300人をピークに数々の人口減少対策の甲斐もなく一貫して減少が続いています。2010年には高齢人口の増加が全国に先駆けてピークアウトし、さらに若年人口が加速度的に減少の一途をたどる予測となっています。

このように高校進学を含む若者の流出が南三陸町の未来へもたらす悪影響は大きく、現状のまま進むと「若者の流出→既存産業の衰退→雇用の縮小→地域活力低下→若者流出」という悪循環を加速させることになります。子どもの健全な発達、ふるさと教育、保護者の経済的負担、少子化、UIターンの定住、文化の継承、地域の活性など、様々な観点において、志津川高校の存続は南三陸町の未来と直結しています。

図2 目指す方向性(人づくり・人の流れづくりの好循環)



## 第2章 現状の環境要因

協議会で実施したアンケート調査結果を参考に、南三陸町と志津川高校の置かれている現状を再認識するために内部要因である強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、外部要因である機会(Opportunities)、脅威(Threats)という四点で分析する SWOT 分析を行いました。

図3 南三陸町と志津川高校の現状【事業環境分析】

	プラスの要素	マイナスの要素
内部要因	<p>〈個に起因する要因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が素直である</li> <li>・学校のルールを遵守することができる生徒が多い</li> </ul> <p>〈町・高校に起因する要因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導や少人数指導ができる</li> <li>・部活動加入率が高い</li> <li>・モアイ化計画等の地域に密着した活動がしやすい</li> <li>・生徒と教員で良い人間関係がつくれている</li> <li>・台湾との国際交流ができています</li> <li>・公営塾がある</li> </ul> <p>Strengths 強み S</p>	<p>〈個に起因する要因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲が低い生徒が増えている</li> <li>・家庭学習時間が少ない</li> <li>・進路意識が弱く、自己の未来をイメージできない生徒がいる</li> </ul> <p>〈町・高校に起因する要因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信が不足している</li> <li>・中学まで続けてきた部活動を続けられない(今後)</li> </ul> <p>W 弱み Weaknesses</p>
外部要因	<p>Opportunities 機会 O</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活用しやすい豊富な地域資源がある</li> <li>・協力的な町内企業・事業者の存在がある</li> <li>・震災後、移住者が増加している</li> <li>・協力的な卒業生(社会人・大学生)の存在</li> <li>・地域課題が豊富であり、地域課題研究の絶好の教材がある</li> <li>・AIなどの情報革新</li> </ul>	<p>T 脅威 Threats</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南三陸町の人口減少・少子高齢化が進んでいる</li> <li>・町内中学生・保護者からの「学力」に対する評価の低さ</li> <li>・町内での学習環境の少なさ</li> <li>・多様化による選択肢の増加</li> <li>・グローバル化の発展</li> <li>・企業が求める社会人としての職業能力の変化</li> <li>・ライフスタイル・働き方の価値観の変化</li> </ul>

以上の分析を踏まえ、本町の中・高校生を取り巻く環境について、課題と可能性を以下のとおり整理しました。

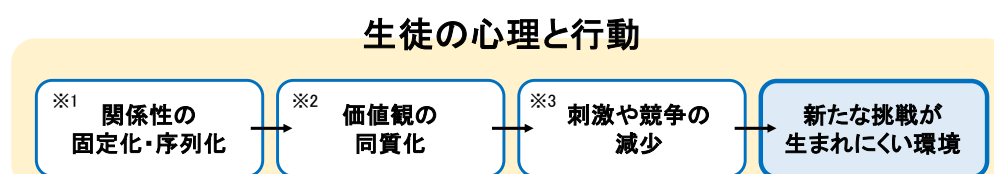
### 〈志津川高校におけるマイナス要因とプラス要因〉

#### ① 少人数による教育のマイナス要因

南三陸町では、生まれも育ちも似たような幼少期からほぼ変わらない狭い人間関係が高校卒業時まで続きます。それは、地域とのつながりを生み、安心して安定した地域環境の中で生活できる一方で、生徒たちの関係性は固定化・序列化(※1)しやすく、「この子はこの性格」「私はこの役割」と新しい個性が発揮されにくい傾向があります。また、多感で価値観の広がりを見せる中学・高校時代に、生徒数が少なく、クラス替えが少ない環境下では、新たな価値観との出会いや新しい人間関係の構築もできず、価値観が同質化(※2)しやすい傾向にあります。新しい価値観を寛容に受入れ、認め合い、尊重しあう環境や機会が乏しいこともあげられます。

そして、集団の中で切磋琢磨する経験が少なく、刺激や競争もあまりない(※3)ため、挑戦・成長しようという意欲が生まれにくい状況にあります。

図4 生徒の心理と行動



#### ② 少人数による教育のプラス要因

規模が小さいということは、一人ひとりを大事にする少人数指導ができるという強みとも言えます。実際、小規模高校になるほど1人の教員に対する生徒数は少なくなっています。その一方で、個別指導においては圧倒的な強みを持っていると言えます。全教員が全生徒の顔と名前や性格まで把握し個別に対応できる強みを活かし、一人ひとりの多様な個性、能力を伸ばすことができます。これらの強みを活かし、志津川高校では「少量・多品種・高付加価値」の人づくりを目指すべきものと考えます。

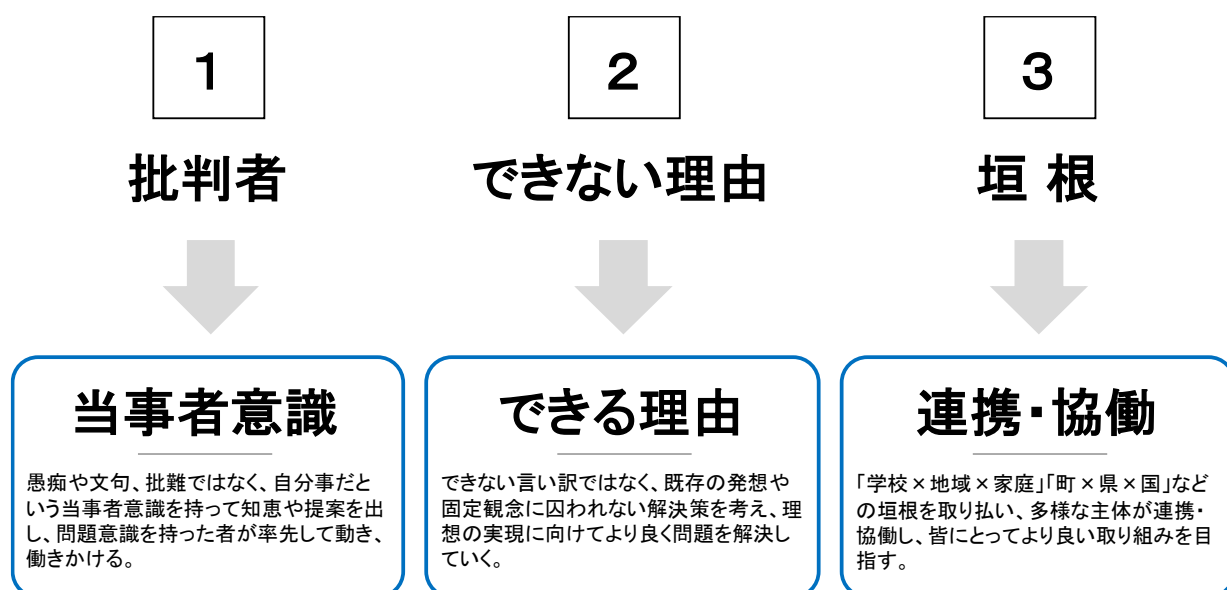
#### ③ 豊かな地域資源と多くの課題を教材として活用

南三陸町には教育に活用しやすい地域資源が豊富にあります。逆に高校の施設・設備はあまり充実しておらず、教職員数も多くはありません。その一方で、志津川高校は住民の「おらほの学校」という意識や、存続に対しての危機感も強いものがあります。そのため高校側が門戸を開いて協力を仰げば、手を貸してくれる地域の土壤ができています。また、小中学校でのふるさと教育の土台もあるため学校教育に関わることに慣れている地域住民も多く、さらに地域における社会関係資本が高く治安も良いため、都市部よりも安心して外部者を学校内に入れることができ、生徒を地域に出すことができます。その上、地域に伝わる多くの伝統や文化からは、自然との共生の知恵や勤勉性など、日本人としてのアイデンティティーとなり、更にこれからのグローバル社会で独自の価値を発揮する重要な価値観を体幹的に学ぶことができます。

また、日本は世界の中の「課題先進国」という言い方がありますが、その中でも南三陸町は「課題最先端地域」です。南三陸町には少子高齢化・人口減少・財政難などの日本の重要課題と、それに伴い今後日本が直面する多くの具体的な問題が山積しています。しかも、社会の縮図と言われるように、それらの問題が生活圏内にとっても身近に転がっています。さらに、南三陸町には「ないもの」がたくさんあります。ゲームセンター、ショッピングモール、アミューズメントパークなど、早く簡単に楽しませてくれる快適で便利なものはありません。そうした不便な環境だからこそ、限られた資源をうまく活かして豊かに生きていく知恵が身につくやすいと考えています。このような特徴がある南三陸町は、課題解決型学習や探究学習を展開し、生き抜く力を育むには絶好の生きた教材であると考えています。こうした恵まれた学習環境を活用しない手はなく、生徒を学校内に留め、すべてを教員がやろうとせず、「地域全体が学校」という発想に転換することが肝要であろうと考えます。

### 第3章 志津川高校魅力化の行動規範

学校の魅力化を進める上で、まずこれに携わる教職員や関係者たちが魅力的である必要があります。そのため、魅力的な大人として、まず生徒たちに求めることを自分たちが手本として実践する必要があります。そのために以下の項目を志津川高校魅力化の実行にあたっての規範とします。





## 第4章 育てたい人材像の策定

「若者流出→既存産業の衰退→雇用の縮小→地域活力低下→若者流出」という悪循環を断ち切り、「若者定住→産業・雇用創出→地域活力向上→若者定住」という好循環に変えていくことが必要です。

### ● 地域の課題（悪循環）

既存産業衰退、若者流出、後継者不足、公共依存  
（少子高齢化、文化行事の衰退、財政難）

### ● 地域の向かう指針

産業創出、若者定住促進、継承者育成、自助共助

### ● 求められている人財

地域で生業・事業・産業を創り出せる人財  
（地域起業家精神）

### 人の自給自足

「仕事がないから帰れない」⇒「仕事をつくりに帰りたい」

志津川高校の約80%の生徒は卒業後に進学や就職で町外に出ていき、その中で将来町へ戻ってくる割合（Uターン率）は約27%（平成9年度卒業生調べ）程度です。実際、現在の30～40代の残人口率（出生数に対して、現在住んでいる人数の割合）は約40%。今後の南三陸町の自立存続を考えると、このUターン率を上げていくことが地域

を持続可能にしていくための重要課題であります。若者に地元へ帰らない（帰れない）理由を尋ねると、多くが「町には仕事がない」「働く場所がない」と答えます。南三陸町が今後目指すべき人づくりは、「田舎には何もない」「都会が良い」という偏った価値観ではなく、地域への誇りと愛着を育むこと。そして、「田舎には仕事がないから帰れない」という従来の意識から、「自分のまちを元気にする新しい仕事をつくりに帰りたい」といった地域起業家精神を持った若者の育成であると考えました。そのことを踏まえ、南三陸町唯一の高等学校である志津川高校の存在意義は、地域の最高学府として、地域の医療や福祉、教育、文化の担い手とともに、地域でコトを起こし、地域に新たな生業や事業、産業を創り出していける「地域起業家的精神をもった人財の育成」だと定義しました。

但し、高校卒業時に町へ残るよう無理に押し留めるようなことや、「なるべく遠くに行って欲しくない」と近場に抑えようとすることは、生徒たちの可能性の開花を阻害することになるため、行ってはならないと考えます。町から出る生徒には、「手の届く範囲に」などと小さいことを言わず、海外も含めて最前線へ思い切り送り出してあげるべきだと考えています。

高校卒業時までには地域起業家精神が育まれていけば、この町が好きで、ここでやりたいと自らの意志で地域に戻ってくる若者は増えていくのではないのでしょうか。地元との繋がりを持ちながらも、20代は外の激しい荒波の中でしっかり鍛えられ、自分で仕事を回せるだけの力をつけ、たくましい姿になって戻ってくる。まさに、サケが春に清流から大海へ旅立ち、数年後、また大きくなって還ってくるイメージです。このように意欲や能力の高い若者たちが還ってくることで、地域は活性化し、また教育に再投資できるといった中長期的な循環を生むことができます。理想は、この南三陸町で必要な人材を志津川高校が輩出し、人の自給自足ができる持続可能な状態です。また、たとえ地域に戻ってこなくても、町への愛着や感謝の心が養われていれば、南三陸町を外からPRしたり、店を持ったら地元のものを使ったり、ふるさと納税をしたり、知恵や人脈を提供するなど、どこからでも地域貢献はできます。そして、この町で身につけた地域起業家精神や地域のつくり手としての力は、将来どこへ行っても、どんな分野でも活躍できる人材に成長していく力になると考えています。



図5 高校時代に育てたい力



## ■南三陸町高校魅力化協議会 委員名簿

(任期:令和5年10月27日から令和7年10月26日まで)

所 属	氏 名	備 考
南三陸町副町長	三 浦 浩	会長
南三陸町教育委員会教育長	齊 藤 明	副会長
宮城県南三陸高等学校長	難 波 智 昭	
南三陸町立志津川中学校長	村 上 敬 子	
南三陸町立歌津中学校	熊 谷 岳 哉	
宮城県南三陸高等学校同窓会長	山 内 義 申	
宮城県南三陸高等学校父母教師会長	鈴 木 和 志	
南三陸町立志津川中学校父母教師会長	久保田 公 二	
南三陸町立歌津中学校父母教師会長	高 橋 直 哉	
南三陸町PTA連合会長	小 坂 健 爾	
南三陸高校を応援する会	西 城 良 子	
南三陸高校を応援する会	安 藤 仁 美	

## ■第2期南三陸高校魅力化構想 策定過程

	日 付	内 容
第1回	令和6年8月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度事業の実施報告について</li> <li>・6年度の事業計画について</li> <li>・高校魅力化アンケート結果について</li> <li>・次期魅力化構想の策定について</li> <li>・デジタル田園都市国家構想交付金実施計画の変更について</li> </ul>
第2回	令和6年10月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期南三陸高校魅力化構想中間骨子の検討</li> </ul>
第3回	令和6年12月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期南三陸高校魅力化構想(案)の確定</li> <li>・パブリックコメントについて</li> </ul>
	令和7年2月14日 ～3月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期南三陸高校魅力化構想(案)の公表</li> <li>・パブリックコメントの募集</li> </ul>
第4回	令和7年2月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントの結果(中間)について</li> <li>・第2期南三陸高校魅力化構想について</li> <li>・令和7年度の事業計画について</li> </ul>